

問われる日本のプルトニウム

—再処理政策の何が問題なのか—

2018年

4月20日(金)

17:00-18:30

開場 16:30



場所：衆議院第一議員会館大会議室
(最寄り駅：東京メトロ 国会議事堂前駅)
入場無料、同時通訳有り

主催：原子力資料情報室
協力：核情報、原水爆禁止日本国民会議

日本は現在、核兵器の材料ともなるプルトニウムを国内外に47トン持ち、さらに毎年8トン取り出せる六ヶ所再処理工場を2021年に稼働させる計画です。

プルトニウムを大量保有し、使うあても無いまま増やそうとしている日本の核燃料サイクル政策は、国際的な懸念を招いています。

プルトニウム問題の国際的権威であるプリンストン大学のフランク・フォンヒッペルさん、パネリストに慶應義塾大学の小熊英二さんをお招きして、プルトニウムの何が問題なのか、私たちはどうすればよいのかを考えます。

第一部：プレゼンテーション

フランク・フォンヒッペル (プリンストン大学名誉教授)

第二部：パネルディスカッション

フランク・フォンヒッペル

小熊 英二 (慶應義塾大学総合政策学部教授)

松久保 肇 (原子力資料情報室)

お問い合わせ

NPO法人 原子力資料情報室

TEL: 03-3357-3800 / Email: contact@cnic.jp